

心の野球

自宅のテレビがプロ野球すべての試合を視聴できる契約になっているため、1軍の試合がない時などは2軍の試合を観させていただくこともあります。(私はアンチ巨人ですが) 今年、たまたま観させていただいた巨人の2軍戦、とても良い野球をしていたのです(特に攻撃面)。

これは監督の影響か・・・桑田真澄監督「心の野球」という昔読んだ本をもう一度引っ張り出してみました。序章部分を抜き出させていただきます。

- 高校時代、朝も夜も練習に時間をとられていました。ではどうしていたかということ、毎日30分だけ机に向かった。また、授業の間、休憩時間の10分間は宿題や復習の時間にあてた。
- プロ野球選手となったあとも、無茶な努力はしなかった。その代わり23年間、毎日毎日、1日10分とか15分、小さな努力を続けた。
- ひたすらノックを受けることは、忍耐力を養ったり、下半身を鍛えたりするためにはいいかも知れない。しかし、試合で必要なのは普通のゴロを着実にさばける技術である。何メートルも走ってボールに飛びつく練習よりも、正面のゴロを何球も処理する方が、選手の守備力は確実に上がる。
- 一番大事なのは「質」。
- ベースボールと野球の違い、それは、野球を通じて人間性を磨こうとする姿勢にある。
- プロ野球の平均引退年齢は29歳、この数字は、プロ野球選手としての人生より、引退してからの方の時間の方が圧倒的に長いということを意味している。野球選手が長い人生を豊かで幸せなものにするためには、単に技術を磨くだけでなく、社会で通用する人間性を養わなければならない。

桑田監督率いる巨人の2軍は今年、圧倒的な数字でリーグを制しています。1軍2軍関係なく、結果を出している組織には「理由」があります。

桑田氏の考え方は、市高野球部にも通ずる(学ばなければならない)ものがあると思います。

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R 7 . 1 0 . 2 2

発行ナンバー 1 2 2 4 号

(鈴木主将の代・・・26号)

OPSの重要性

日本では単打もホームランも同じ1本のヒットという形で計算される「打率」という考え方が一般的ですが、メジャーでは、得点への貢献度(単打より長打の方が価値があるという考え)という数字、「OPS」が一般的に使われているそうです。

野球という競技の面白さであり難しいところ、それは(3つアウトをとられるまでに)ホームベースを踏まなければ得点にならないところです。(逆に考えればホームベース以外はいくら踏まれても構わない・・・)

市高のように「OPS」が低い(長打が少ない)集団の場合、求められるのは「足」を有効に使うことになります。クライマックスシリーズ阪神対横浜の初戦、中盤まで両チーム無得点、その均衡を破ったのは1死2塁からの近本選手の3盗でした。また2点目は1死1塁から佐藤選手のセンター前ポテンヒットで1塁から3塁へ進んだ森下選手の好走塁でした(映像残っていたら観て欲しいです)。

選手達には冬の期間、OPSを上げる努力をしてもらいたいですが、そこまで一気に変化することは無理そう・・・ということは、リスクを冒して(足を使って)でも1死3塁をつくることを考えなければなりません(マニアックな話ですいません)。そのためには「走塁技術」を身につける必要があります。

言いたいことが曖昧になってしまいました。

要は、「OPS」も「走塁技術」もどちらも向上させれば良いのです。

春、秋とは違う野球を展開しましょう！